

体育	通年 週1回 2単位
担当者：鈴木 明	
講義の目標及び概要	
<p>幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。幼稚園指導要領、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、運動あそび・身体運動への取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子どもたちがその過程を楽しみ、さらにそこからの気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするか。そして一援助者として「生きる力」につなげられように促すことも含めたい。</p>	
評価方法	
<p>授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上（個人に応じて授業最初のレベルから終了時までの過程）、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席点50点（欠席－6点、遅刻（20分まで）・早退－2点／回）、評価点50点</p>	
教科書	
プリントを配布する	

体育	通年 週1回 2単位
担当者：高橋 進	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。</p>	
評価方法	
<p>授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席点50点・50%（欠席－6点、遅刻（20分まで）・早退－2点／回）、テスト及び課題・20%、模擬授業・30%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

体育科教育法	春集中 2単位
担当者：鈴木 直樹	
講義の目標及び概要	
<p>この授業では、体育授業づくりの視点を学び、その活用と実践力を育成することを目指す。</p> <p>体育授業は、「自己－他者－モノ」との関わり合いによって織り成す世界といえる。教師は、その世界に参与する一人として学びを解釈し、授業を創造しなければならない。したがって、教師が授業の進め方という「やり方」を身につけただけでは本質的な学びは保障されない。体育授業という場に身を置き、自らの身体性を児童に拓き、児童と協働してこそ、意味ある学びが生まれるといえる。そのためには、体育における学びをどのように見て、教材をどのように解釈し、児童にどのような眼差しを向けるかを身体化していく必要がある。そこで、本授業では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成し、教師の「指導力」を向上させていくように構成する。具体的には、「指導力」として構成されるものとして「授業を構成する力」「授業の実践力」「授業の省察力」の3つを取り上げ、「知る・見る（する）・探求する」を円環させながら学習を進めていくことができるようにする。</p>	
評価方法	
レポート、学習指導案の作成、参加の態度等を総合して評価する。	
教科書	
鈴木直樹『関係論に立つ体育授業づくり-2008年学習指導要領の改訂を契機として-』大学教育出版	

対照言語学	春 週2回 4単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この授業では、世界にはどのような言語があるのか、その言語は日本語とはどのように違うのかを学ぶ。また、日本語学習者の誤用から、日本語を外国語として分析していく。</p> <p>語学力を身につけるための授業ではなく、様々な言語の成り立ちを一つ一つ解明し、それぞれの違いを理解していくための授業である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群言語系統科目の一つであり、日本語教員養成課程言語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>3. 学びの意義と目標 言語の多様性および日本語の特徴を学び、言語研究や日本語教育で必要とされている基礎的分析力をつけることを目標とする。</p>	
評価方法	
出席25%、宿題5%、授業参加度（発表などの授業内活動）20%、中間レポート25%、期末レポート25%。	
教科書	
授業の中で指示する	

地域経済論	秋	週2回	4単位
担当者：瀬名 浩一			
講義の目標及び概要			
<p>〈内容〉 日本国内の格差問題よりも太平洋を囲む国際間格差の縮小を目指す環太平洋パートナーシップ協定（TPP）に注目が集まってきた。地域経済協力の先例ヨーロッパ連合（EU）では1990年代、すでに局所から超国家に渡る様々のレベルで地域問題に取り組む姿勢の転換が起こった。</p> <p>初めに日本の首都圏と地方圏の間の地域格差の実情、次にアジアを中心に新興国市場に立ち向かう日本企業の戦略を学ぶ。第2に、かつての「英国病」を克服し国際競争力を取り戻した英国と日本における地域の雇用、所得、成長率、失業率、格差是正策を比較。最後にEUで起こった地域連合、権限委譲を参考にTPPの可能性を探る。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 1年生で学ぶ経済学、社会学の応用編、専門演習、卒業研究、地域圏研究の準備過程。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 地域経済統計の読み方、地域間格差が生まれる理由、格差を長引かせないための政策などを理解する事により、格差から生まれる経済的、社会的問題への取り組み方を学べる。</p>			
評価方法			
出席点 30%、小テスト 40%、 期末テスト30%			
教科書			
プリントを配布する			

地域圏研究(アジアA)	秋	週2回	4単位
担当者：秋吉 祐子			
講義の目標及び概要			
<p>〈内容〉地球上の人間存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において中国を中心として東アジアを分析・考察する。授業メニューは(1)共通認識を得るために教科書の輪番プレゼンテーション（プレゼン）とそれに関する質疑・応答と討論、(2)自主研究のプレゼンとそれに関する質疑・応答と討論、(3)上記世界観に基づくディベート、(4)各種文書作成（パワーポイントのレジュメ、輪読のレポート、自主研究の論文、プレゼンのフロアー評価レポート等）である。適時に講義、VTR利用授業を行う。各授業のメニューや課題等はNet Commons（担当者と履修生間の相互通信に使用するウェブサイト）を活用する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門科目であり、教職課程関連科目（でもある）。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 履修生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 意見発表・意見交換・議論における発言能力と技術能力（PCやスピーカー、マイク、映像モニター等社会で使うオーディオ機器）の育成。</p>			
評価方法			
評価項目授業内外課題の全て（プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート・論文等90%および授業態度10%）。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。			
教科書			
授業の中で指示する 進藤榮一他『農が拓く東アジア共同体』日本経済評論社			

地域圏研究(アメリカ)	秋	週2回	4単位
担当者：小島 かおる			
講義の目標及び概要			
<p>アメリカ研究とは「アメリカとは何か」を考える総合的・学際的な学問分野である。アメリカ研究の対象は多岐にわたっており、「アメリカとは何か」を明らかにするために様々な学問分野の方法が駆使されている。本講義の前半では、アメリカの統治の仕組みとアメリカの歴史を学び、アメリカに関する基礎知識を習得することを目的とする。また後半では、習得した知識を踏まえて、毎回テーマを設け、それぞれの切り口から「アメリカとは何か」を具体的に考えてみたい。</p> <p>今日の国際社会において、アメリカ合衆国は唯一の超大国として絶大な影響力を發揮している、また、日本にとっても、政治、経済、社会、文化、その他広範な領域において決定的に重要な国といえる。多くの人々が「アメリカ」という国に対して、何らかのイメージを抱いている。そのような状況の中で、正確な知識に基づいて「アメリカとは何か」を改めて客観的に分析・考察することはきわめて重要である。</p> <p>今日、私たちはグローバル化した世界に生きていかざるを得ない。多様性の国アメリカは国際社会の一つの縮図でもある。アメリカを知ることは、多様性と統合の観点から「世界」の問題を考える上でも意義あることである。</p>			
評価方法			
期末試験（100点満点）で評価する。期末試験では自筆ノートの持込を認める。また自由提出のレポートも受け付ける。レポートは30点を上限として期末試験の点数に加算する。			
教科書			
プリントを配布する			

地域圏研究(ヨーロッパ)	秋	週2回	4単位
担当者：倉西 雅子			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 本講義では、政経両分野におけるヨーロッパの歴史を振り返りながら、現在のEUについて考えてゆきます。政治分野では近代国民国家体系の成立時期から、経済分野では広域的な貿易圏が成立した中世から現代までを概観します。EUを、分立的な国民国家体系と広域的な市場との調和形態として捉えることで、人類史におけるEUの意義を問うてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「地域圏研究」の一つである本講義は、政治経済学部の政治学系専門科目、ならびに、コミュニティー政策学部の教職専門科目として開設されています。</p> <p>3. 学びの目標 学生諸君が、EUを深く理解するとともに、政治と経済との交差についても知的関心を寄せる契機となるのが、本講義の学びの目標です。</p>			
評価方法			
単位の認定は、レポート提出と3分の2以上の出席を条件とします。成績は、レポートと出席に対し、それぞれ50%の割合でポイントを配分して評価します。			
教科書			
プリントを配布する			

地域圏研究(ロシア・東欧)	秋 週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 概要 20世紀初めの反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明らかのように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとっての、ひいては世界にとっての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。</p> <p>2. 目標 隣国の歴史の概略を知ること。</p> <p>3. 目的 講義の目的は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。</p>	
評価方法	
出席率(20%)と試験(30%)、小論文(50%)による。	
教科書	
軍事史学会編『日露戦争(一)』錦正社	

地域子育て支援論	秋 週1回 2単位
担当者：海津 敦子	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 幼稚園教員、保育士、小学校教員の多くが大きな悩みのひとつに「保護者とどうしたら信頼関係がつけられるか」がある。本講義では 保護者と繋がり子どもを育てていくために必要な力を身に着ける。保護者の視点に立ち連絡帳の書き方など様々な事例を通して、具体的に学んでいく。</p> <p>2カリキュラム上の位置づけ 子どもが一人ひとり違うように、保護者も一人ひとり違う。そして、子育てを支援する援助者も一人ひとり違う。それぞれの違いがあるから誰もが学びあえる。だから出会いが面白い。せっかく出会った縁があるのなら、子どもも大人も誰もが幸せになれるような繋がりを持ちたいものだ。本講義では、援助者本人も幸せ感を持てる支援のあり方、繋がりを持ち方の基礎を身に着けるものである。</p> <p>3学びの意義と目標 支援のあり方、人との繋がりを持ち方、信頼関係の築き方は、どんな職業についても求められる。講義を通して受講した学生の人生を支えていく力を養う。</p>	
評価方法	
出席 60点(4点×15回) レポート 40点	
教科書	
プリントを配布する	

地域社会論	秋 週2回 4単位
担当者：大高 研道	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 生活の個別化に伴って地縁的な共同関係(むら社会)の解体が進む現代社会では、地域内の人間関係が希薄化し、地域社会の衰退・崩壊が叫ばれている。その一方で、災害時や高齢化社会への対応、さらには子どもへの犯罪にかかわる防犯対策等を考える際のキーワードとして「地域社会/コミュニティ」の重要性が叫ばれるのも現代の特徴のひとつである。本講義では、まずグローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を時事問題等を取り上げながら明らかにし、その上で、「現代的協同」(人とつながる形)という側面から、地域社会の変貌と未来について考えてみたい。</p> <p>2.カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の共通専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本講義では、「不安社会」や「リスク社会」と呼ばれる現代において失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる契としてあらためて注目されている「地域(コミュニティ)」の現代的意味を検討することが最大の目的となる。</p>	
評価方法	
<p>・試験80%+レポート20%</p> <p>・出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

地域福祉	春 週2回 4単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1、目的 少子・高齢化社会の進展に伴い、福祉をとりまく状況も急激に変化して来ております。 この講義では、このような状況や、介護保険、社会福祉基礎構造改革、障害者自立支援法など、福祉の体系や、社会保障制度の変遷について考え、さらに、社会福祉法で位置づけられた「地域福祉の推進」について考えます。</p> <p>また、「地域」と「福祉」がどう係わり合い、地域社会を形成しているのか、「福祉のまちづくり」について考えます。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目である。福祉諸制度と地域社会がどう関わっているのか基礎的なことを学ぶ。</p> <p>3、学びの意義と目標 福祉諸制度と地域社会の関わりの中で、一住民として考え、地域福祉の基礎的なことを学ぶとともに「福祉によるまちづくり」を考える。</p>	
評価方法	
新聞記事等感想レポート20%、学期末レポート60%、出席20%によって評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

地域福祉論		春	週1回	2単位
担当者：牛津 信忠				
講義の目標及び概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・ 地域福祉の推進方法（ネットワークング、社会資源の活用・調整、地域ケアシステムを含む）について理解する。 				
評価方法				
授業出席率、授業終了前に実施する（授業二回に一度10分程度）小テスト、学期末の論文形式のテストで総合的に評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

地域福祉論		春	週2回	4単位
担当者：牛津 信忠				
講義の目標及び概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・ 地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。 				
評価方法				
授業出席率、授業終了前に実施する（授業二回に一度10分程度）小テスト、学期末の論文形式のテストで総合的に評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

地球環境論研究		秋集中	2単位
担当者：村上 公久			
講義の目標及び概要			
<p>環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、ストックホルム「国連人間環境会議」（1972年）と以降の各地球環境問題を巡る国際会議、特にUNCED「国連 地球サミット」（1992年）での「環境と南北問題」の取り組みを中心に、近年の地球環境問題を巡るアジェンダの変遷とその背景を考察する。次に、国際化また globalization 全球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティーと超国家機構とに分極してゆく中で「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途をSustainable Development「保続的(持続的)発展」を実現する環境政策の観点から考える。</p>			
評価方法			
ディスカッションへの参画（出席を含む）と寄与・貢献50%、レポート50%により評価。			
教科書			
プリントを配布する			

地誌学概説A		春	週1回	2単位
担当者：秋山 秀一				
講義の目標及び概要				
<p>〈内容〉 世界の各地では色々な人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、特にアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げていきます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 国際理解を深める上で、より理解度を高めることに大きく寄与します。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。</p>				
評価方法				
日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめとしてのレポート（40%）等から総合的に評価します。				
教科書				
秋山秀一『フィールドワークのスズメーアジア観光・文化の旅』学文社				

地誌学概説 B	秋 週1回 2単位
担当者：秋山 秀一	
講義の目標及び概要 (内容) 世界の各地では色々な人々がそれぞれに、その土地に根ざした色々な暮らしをしています。この授業では世界の各地、特にヨーロッパ諸国並びにアメリカにおける人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に上げていきます。 (カリキュラム上の位置づけ) 国際理解を深める上で、より理解度を高めることに大きく寄与します。 (学びの意義と目標) 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。	
評価方法 日頃の授業への貢献度 (30%)、出席状況 (30%)、小レポート、それにまとめたレポート (40%) 等から総合的に評価します。	
教科書 秋山秀一『秋山秀一の世界旅』八千代出版	

地誌学特講 A	春 週1回 2単位
担当者：平 修久	
講義の目標及び概要 1 内容 地誌学は、ある特定した地域内における地理的事象を自然・人文両方の見地から研究する学問である。本講義では、都市の形成過程、見方、発展・衰退要因という概論を踏まえた後、東京について、空間的な発展・変遷の歴史の観点から学ぶ。 平安時代から江戸時代と、明治時代以降に分け、前者について時代の流れを踏まえて学び、後者については分野別に学ぶ。 2 カリキュラム上の位置づけ 自然地理学概説、人文地理学概説をベースにした教職関連科目の一つである。また、まちづくり学の一部の講義内容とも関連している。 3 学びの目的 地理学の重要な対象の一つである都市について、発展と変遷という歴史的事象とその背景などの理解を深めることが、本講義の学びの目的である。	
評価方法 配点は、出席点20%、課題・小テスト30%、期末テスト (もしくはレポート) 50%の予定。	
教科書 授業の中で指示する	

地誌学特講 B	春 週1回 2単位
担当者：大高 研道	
講義の目標及び概要 1 内容 本講義では、アイルランド・イギリスを取り上げて、その歴史・社会・文化・自然について学ぶ。世界をリードしてきたイギリスの歴史や風土について学ぶことは、それ自体として興味のあるテーマではあるが、本講義ではアイルランドの視点に立った「アイルランド・イギリス研究」に取り組みたい。とくに、「北アイルランド紛争はなぜ起きたのか？」という主題への究明を通して、両国間の歴史や文化への影響についてともに考えたい。 2 カリキュラム上の位置づけ 教職科目 (中学校「社会」、高等学校「地理歴史」) の選択科目であり、特定の地域の地誌について理解を深める「特講」のひとつに位置づけられている。 3 学びの意義と目標 一般的な歴史や地理について学ぶだけでなく、まずはその地域に住む人々の暮らしや文化に親しみ身近な存在として感じること、そして異文化交流の可能性を主体的に考えることが主目的となる。また、教職科目であるため、自発的に関心のある国・地域について調べ、伝える (教える) 能力の向上も重要な学びの目的である。	
評価方法 ・課題報告 (50%) およびレポート (50%)。 ・出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。	
教科書 プリントを配布する	

地方財政	春集中 4単位
担当者：田中 聡一郎	
講義の目標及び概要 1. 内容 地方財政は、教育・医療・福祉サービスの供給や公共投資によるインフラ整備など、私たちの生活に密接な役割を果たしている。また、住民も議会等を通じて政策過程に深く関与することが可能である。その一方で、地方財政は、国の財政との関わりも強く、国と地方の役割分担や関与のあり方についても考察しなくてはならない。本講義ではこのような地方財政の特徴としくみについて検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本講義でも、基礎的な事項について解説を行うが、財政学、行政学、地方自治論など関連する科目と併せて受講することが望ましい。 3. 学びの意義と目標 地方財政の基本的な理解を通じて、地方自治体の政策や地方自治のあり方について、一人の市民として見識を持つことを目標とする。	
評価方法 最終試験 (70%)、平常点 (出席および授業内課題、30%)。	
教科書 プリントを配布する	

地方自治法	春	週2回	4単位
担当者：鹿谷 雄一			
講義の目標及び概要 【概要】 憲法第8章で保障されている地方自治について、地方自治法等の解説のほか、地方公共団体（都道府県・市町村等）が制定する「条例」を通して、地方公共団体の組織や活動、財務など地方自治の基本的なしくみを理解することを目標とする。 【意義】 2000年の地方分権一括法による地方自治法の改正、その後の分権改革の進展や財政健全化法の制定など地方自治を取り巻く環境が変化している。自治基本条例にみられるように法律の委任に基づかず自主的に条例を制定している地方公共団体も少なくない。具体的な条例などを取り上げつつ、変化する地方自治について理解を深めていく。 【位置付け】 関連法として地方財政法、地方税法、地方公務員法などがある。住民サービスの提供に関する法律なども多くある。地方公共団体はこれらに基づいて活動をおこなっている。憲法・行政法など法律系の科目のほか、地方自治論、行政学、地方財政などの科目を広く学ぶことで地方自治の理解をより深めることができる。 【参考書】 木佐・田中『自治体法務入門』ぎょうせい。宇賀克也『地方自治法概説』（有斐閣）。今井照『図解よくわかる地方自治のしくみ』（学陽書房）。			
評価方法 レポート（30%）および期末試験（40%）に、出席・平常点（30%）を加え、評価する。 *レポートは中間試験に代わるもの。 *レポートの提出と期末試験の受験は必須。 *平常点には講義への貢献度も含む。			
教科書 プリントを配布する			

地方自治論	秋	週2回	4単位
担当者：鹿谷 雄一			
講義の目標及び概要 【概要】 近年の地方制度改革とその動向を踏まえ、地方自治の「変化」に着目し、前半では地方自治の理論やしくみを、中盤では歴史や比較を、後半では地方行革や政策の取り組みを中心とした解説・考察を通して、地方自治についての理解を深める。 【意義】 地方自治体は、国から独立して地域社会を治め、教育、都市計画、福祉など私たちの生活に必要なサービスを提供している。地方分権の進展や市町村合併、さらには政権交代などにより地方自治を取り巻く環境は変わりつつある。「ガバメントからガバナンスへ」の言葉が謳われ、住民との関係の見直しもなされている。講義を通して、地方自治体の活動に関心を払い、地方自治の主人公としての意識をもつことにある。 【位置付け】 地方自治は、憲法で保障され、地方自治法で具体的に制度化されている。「揺りかごから墓場まで」の言葉に代表されるように対象は広い。政治学や行政学、地方財政のほか、政策に関する科目など関連科目は多岐にわたる。 【参考書】 佐藤竺監修『市民のための地方自治入門』（実務教育）。山本啓編『ローカル・ガバメントとローカル・ガバナンス』（法大出版）。今井照『図解よくわかる地方自治のしくみ』（学陽書房）。			
評価方法 レポート（30%）および期末試験（40%）に、出席・平常点（30%）を加え、評価する。 *レポートは中間試験に代わるもの。 *レポートの提出と期末試験の受験は必須。 *平常点には講義への貢献度も含む。			
教科書 土岐・平石・斎藤・石見『現代日本の地方自治』北樹出版			

チャイルドマインディング概論	春	週2回	4単位
担当者：西内 久美子			
講義の目標及び概要 この講義の目標は、日本では「家庭的保育」と訳される「チャイルドマインディング・システム」がその発祥とされる英国において、創生期である産業革命時代から今日に至るまで、英国の子育てが家庭での一般的な保育システムとなるまで、いかにして育成されてきたかを日本の保育システム或いは制度と比較しながら考察する事にある。またこの英国生まれの保育システムは日本においてナショナル・チャイルドマインディング・アソシエーション・ジャパンがその養成を始め、すでに15年を経過しているが、将来にわたる日本での「チャイルドマインディング・システム」の可能性について考察したい。また講義は机上の研究に留まるが、受講後、ナショナル・チャイルドマインディング・アソシエーションジャパンの開講する厚生労働省ガイドライン準拠カリキュラムである実践的養成セミナーを受ける事により「チャイルドマインダー」の資格及びそのセミナーに盛り込まれている「小児・幼児救急救護法」の国際カードを取得する事ができ（協会主宰の検定試験には合格しなければならない。英国NCMAからは修了証が授与される）、より実社会において役立つインセンティブとなっている。			
評価方法 準備学習のレポート15% 学期末試験/85%…知識の確認			
教科書 畠中宗一『チャイルドマインダー』日本いかい社			

中学校教育実習(PL用)	春	週1回	5単位
担当者：小川 洋			
講義の目標及び概要 1. 内容：実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。 3. 学びの意義と目標：学校運営の実際などについての講義を行うじて、実習生の勤務のあり方・心得などについての理解を深める。また、実習校の情報を収集しながら、より充実した教科指導のあり方について研究し、教材の準備などを進めてもらう。			
評価方法 実習校からの評価と報告および事前・事後の授業での取り組み状況などから総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

中学校教育実習 (J用)	秋 週1回 5単位
担当者：熊谷 芳郎	
講義の目標及び概要	
◆内容◆ 本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における4年生の必修科目である。中学校での教育実習を控え、これまでに学んだことを実践の場に生かし、それを検証するために、実践的な準備と結果の分析とを行なう。それによって、教育職として世に出るための総まとめとしてほしい。	
◆学びの意義と目標◆ 「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。	
評価方法	
出席重視。授業に関する提出物50%、教育実習報告書の内容50%を基本として評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

中学校教育実習 (A用)	春 週1回 5単位
担当者：長崎 睦子	
講義の目標及び概要	
1. 内容：本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。	
2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における4年生の必修科目である。	
3. 学びの意義と目標：英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。	
評価方法	
出席20%、指導案・模擬授業30%、実習レポートと報告20%、教育実習日誌30%によって算出する。*評価内容は変更する場合があります。その場合は、授業内で説明をするので確認をすること。	
教科書	
授業の中で指示する 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』現代教育社	

中国語 I (初級 A)	秋 週2回 2単位
担当者：間 子謙	
講義の目標及び概要	
1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。	
2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。	
3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。	
評価方法	
定期試験 (60%)、出席状況 (10%)、受講態度 (30%) により総合的に評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

中国語 I (初級 A)	春 秋 週2回 2単位
担当者：福田 素子	
講義の目標及び概要	
内容： ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。	
カリキュラム上の位置づけ： 本講義は、初めて中国語に触れる中国語を母語としない学生を対象とする。	
学びの意義と目標： 中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。	
評価方法	
出席 (40%)・試験 (40%)・授業態度 (20%) により総合的に評価する。	
教科書	
劉穎/塚本慶一『新版1年生のコミュニケーション中国語』白水社	

中国語Ⅰ(初級A)	春 週2回 2単位
担当者: 新田 小雨子	
講義の目標及び概要 1. 講義内容 本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。用いる教科書は会話を中心とするもので、日常生活に必要な表現だけではなく、いろいろな場面における話し方も本文に盛り込んでいる。授業中はロールプレイによる会話練習を行う。また、初級段階の基礎的な文型なども少しずつ授業に取り入れる。	
2. カリキュラム上の位置づけ 中国語入門段階の講義である。初めて中国語にふれる学生を対象とする。	
3. 学びの意義と目標 言語を学ぶときに、場面に応じた会話練習が非常に重要である。それぞれの場面によって使う言葉が異なってくるため、適切でない話し方をすると、誤解を招くことが多々ある。したがって、本講義では、いろいろな場面における話し方の習得を目標とする。	
評価方法 ・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。 ・割合は出席30%、平常点40%、試験30%です。	
教科書 董燕/遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』朝日出版社	

中国語Ⅱ(初級B)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 閻 子謙	
講義の目標及び概要 1. 目的 本講義は中国語の世界に第一歩を踏み出すことになった学生を対象としている。	
2. カリキュラム上の位置づけ 中国語Ⅰで学んだ発音や文法の基本を復習・補足し、初級終了。	
3. 学びの意義と目標 基本表現学習の上に立って、特定のシチュエーションを想定し、学生一人ひとりのレベルや要求に応じる形で幅広い表現力を養い、最終的に簡単な日常会話や自己紹介などができることを目標とする。	
評価方法 定期試験 (60%)、出席状況 (10%)、受講態度 (30%) により総合的に評価。	
教科書 授業の中で指示する	

中国語Ⅱ(初級B)	春 週2回 2単位
担当者: 福田 素子	
講義の目標及び概要 内容及びカリキュラム上の位置づけ: 2010年秋学期の「中国語Ⅰ(初級A)」(福田)の続きを行う。初級Aでは、発音・主語+動詞+目的語から成る文・動詞「是・有・在」を使った文型・形容詞述語文・数字(金額・時刻)・完了の「了」・主な前置詞・疑問詞・助動詞を学習したので、更に多くの文法事項を学び、語彙を増やし、中国語の運用能力を高めていく。時間があれば、コミュニケーションの導入も行う。	
学びの意義と目標: 一通りの中国語文法と語彙を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力の基礎とする。中国語の各種検定受検のスタートラインに立てる語学力を身につける。	
また、日本語とは何か、言語とは何かという問題意識も持てるようになってほしい。	
評価方法 出席 (40%)・試験(40%)・授業態度(20%)により総合的に評価する。	
教科書 塚本慶一・劉穎『2年生のコミュニケーション中国語』白水社	

中国語Ⅱ(初級B)	秋 週2回 2単位
担当者: 新田 小雨子	
講義の目標及び概要 1. 講義内容 本講義で用いる教科書は会話を中心とするもので、日常生活に必要な表現だけではなく、いろいろな場面における話し方も本文に盛り込んでいる。授業中はロールプレイによる会話練習を行う。また、初級段階の基礎的な文型なども少しずつ授業に取り入れる。	
2. カリキュラム上の位置づけ 中国語初級段階の講義である。中国語に関する初歩的な知識を有する学生を対象とする。	
3. 学びの意義と目標 言語を学ぶときに、場面に応じた会話練習が非常に重要である。それぞれの場面によって使う言葉が異なってくるため、適切でない話し方をすると、誤解を招くことが多々ある。したがって、本講義では、いろいろな場面における話し方の習得を目標とする。	
評価方法 ・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。 ・割合は出席30%、平常点40%、試験30%です。	
教科書 授業の中で指示する 董燕/遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』朝日出版社	

中国語コミュニケーションA	春 週2回 2単位
担当者：閻 子謙	
講義の目標及び概要	
1、目的 初級の段階を終え、更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。	
2、カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級に相当する科目である。	
3、学びの意義と目標 改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象をもつと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。	
評価方法 出席状況(10%)、受講態度(30%)、定期試験(60%)により総合的に評価。	
教科書 授業の中で指示する	

中国語コミュニケーションB	秋 週2回 2単位
担当者：福田 素子	
講義の目標及び概要	
授業内容： 中国語文法初級の学習を継続しながら、広告や映画DVDや新聞・雑誌など様々な教材を用い、中国語によるコミュニケーションや中国の文化を学ぶ。隔週で聴解・会話に重点を置いたトレーニングを行う。	
カリキュラムにおける位置づけ： 中国語の文法項目についての知識を増やししながら、中国のメディアに触れ、文化に対する理解を深める。また母語でない言語による会話を訓練する。	
学びの意義と目標： 聞く・話す能力はもちろんのこと、中国語話者のものの考え方、コミュニケーションをとる時に留意する点についても身につけていきたい。	
評価方法 出席・授業態度・レポートを等分に重視する。	
教科書 プリントを配布する	

中国思想	春 週2回 4単位
担当者：大坊 真伸	
講義の目標及び概要	
【はじめに】 今年度は「儒教」(儒学)について講義を行う。日本文学学科の受講生が多いことを鑑み、なるべく日本文化と関係が深い事柄にスポットをあてて講義する。中国思想の根幹を成し、日本にも大きな影響を与えた「儒教」に触れてみて欲しい。	
【講義内容】 (1)本年度の講義は「儒教」を扱うものとする。ただし、必要に応じて「儒教」以外の「諸子百家」についても言及していく。(2)日本文化に関連のある逸話を紹介していくつもりである(例えば赤穂浪士と『礼記』など)。お楽しみに。(3)漢文訓読の基礎を学ぶ。間々、漢字についても触れるので、辞書は必携とする。	
【備考】 中国の思想に触れてもらうため、日本語訳を読み、その日本語訳から漢文(原文)を読解する帰納的な授業を行う。儒教思想の特徴、正確な漢文訓読を講義の目的とするが、末枝末葉にはこだわらないようにしたい。	
評価方法 通常の定期試験(レポート)・出席状況・小テスト・授業態度によって評価する。 小テスト(漢文基本句形&中国思想)は毎時間行う。	
教科書 森川敏行『完全征服 入試頻出 漢文《語と句形》』桐原書店 三羽邦美『基礎からのジャンプアップノート 漢文句法・演習ドリル』旺文社	

中国文学	秋 週2回 4単位
担当者：濱田 寛	
講義の目標及び概要	
〈内容〉 中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。	
〈カリキュラム上の位置づけ〉 中国の古典作品の読解・鑑賞を通して、中国文化の一端に触れるとともに、日本文化を改めて見つめ直す契機としたい。本講義は中高の国語科教員の免許取得を目指す学生には必修となっている。	
〈学びの意義と目標〉 中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。	
評価方法 出席点:30% 小レポート:20% 学期末レポート:50%	
教科書 授業の中で指示する	

中小企業論A		春	週1回	2単位
担当者：砂川 和彦				
講義の目標及び概要				
1. 内容 中小企業は、法人企業数で99%以上、雇用者数で約75%を占める日本経済を支える重要な主体である。一方で、ニュース等では話題になることが少ない経済主体でもある。本講義では、中小企業が直面する様々な問題を解説し、日本経済の発展、変化と中小企業の関係について分析する。				
2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業が直面する諸問題を学ぶ専門科目である。経済学を学ぶ者にとって重要な領域である。				
3. 学びの意義と目標 多くの方が仕事をしている中小企業という環境に関して学び、現代の中小企業が直面する問題に関して理解を深めることを目標とする。				
評価方法				
出席(40%)、小テスト(20%)、試験(40%) 小テストは授業2回に1回の割合で合計7回行う。				
教科書				
プリントを配布する				

中小企業論B		秋	週1回	2単位
担当者：砂川 和彦				
講義の目標及び概要				
1. 内容 春学期の中小企業論Aの続編である。中小企業論Aは講義形式の授業であるが、本講義ではケーススタディも取り入れた授業を行い、授業での発言を歓迎する。 後半は、中小企業の企業戦略論にスポットを当てて授業をする。中小企業のみならず、企業戦略全般に関心のある学生にも受講して頂きたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業に関してケーススタディを織り交ぜながら学ぶ専門科目である。経済学の重要領域である。				
3. 学びの意義と目標 自らが、中小企業（ベンチャー起業）を起業したつもりになって企業戦略を考えられるようになる、という状態に少しでも近づきたい。				
評価方法				
出席(40%)、小テスト(20%)、試験(40%) 小テストは授業2回に1回、合計7回行う				
教科書				
プリントを配布する				

地理歴史科教育法		秋	週1回	2単位
担当者：小川 洋				
講義の目標及び概要				
1. 内容：まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。				
2. カリキュラム上の位置づけ：高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。				
3. 学びの意義と目標：自信を持って教育実習にいけるだけの能力や技術をしっかりと見につけてもらう。				
評価方法				
授業への参加状況、模擬授業や授業計画案の提出などによって総合的に評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

哲学 ※春学期		春	週2回	4単位
担当者：高橋 章仁				
講義の目標及び概要				
《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどりながら、その思索をなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。				
《カリキュラム上の位置づけ》 考えることは、あらゆる学問を根本から下支えするものである。考えることの意義を学び、考える力を磨くことを通じて、各人の専門分野の研究に生かしてほしい。				
《学びの意義と目標》 取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待する。				
評価方法				
学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。				
教科書				
プリントを配布する				

哲学	春 週2回 4単位
担当者：小林 剛	
講義の目標及び概要 (内容、学びの意義と目標) この講義では、西洋に初めて本格的に導入された哲学であるアリストテレス哲学において、当時最も議論された「可能性」の問題について、著名な哲学者たちの見解を考察していくを通して、西洋哲学とはおおよそどのようなものであるのかを理解することを旨とする。 (カリキュラム上の位置づけ) この講義は、基礎科目であり、必修科目である。	
評価方法 毎回の講義後に行われるまとめの小テスト(8割弱)と、持ち込み不可の期末試験(2割強)の合計点数で評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

哲学	秋 週2回 4単位
担当者：佐藤 啓介	
講義の目標及び概要 1) 内容 本講義は、主に二つの内容を扱います。前半では、哲学(特に西洋哲学)とはどのような学問であるか、またその歴史を解説した後、哲学が伝統的に扱ってきた問題を「真」「善」「美」という領域に分け、入門的な解説をします。後半では、現代の哲学の展開やその意義を理解するため、私たちの身近な生活にも関わるような問題(愛、都市、命など)を、哲学がどう扱っているのかを解説します。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」分野の必修科目、他の5学科では教養科目としての選択必修科目です。思想分野をはじめ、多くの科目の基とも基礎となる科目です。 3) 学びの意義と目標 哲学では、個々の知識を覚えることではなく、自分の力で考えることが重要です。ただ、それは一人で自在にできるものではなく、過去の思想家たちの思想が大きな助けとなります。そうした助けを借りながら、自分が関心を持っている問題に自分なりの考えを深め、それを言葉で表現できるようになることが目標です。	
評価方法 学期末レポート(40%)、中間レポート(30%)、出席点(30%)	
教科書 プリントを配布する	

哲学	春 秋 週2回 4単位
担当者：石田 安実	
講義の目標及び概要 ≪内容≫ 二つの興味深い哲学的トピック、私たちの行為と思考に関するものを扱います。第一の行為に関しては、倫理的行為や「倫理」と呼ばれるものは何なのかを考えます。倫理的行為とはどんな時に「善い」「悪い」と決まるのでしょうか。それは、「倫理とは何か」という深い問題につながっています。第二に、私たちの思考の中心にある「心」とは何であるのかを論じます。私たちの「心」を「客観的に説明する」のは、可能なのでしょうか。可能でないとすれば、それは「心」のどんな特質ゆえなのでしょう。この授業では、「心」の特質とそれを説明しようとする理論を見ることで、「心」の本質に迫ります。講義は、現実起こっているケースを考察する形で進めます。受講者と一緒に考えることを重視しますので、学生側からの意見も期待します。 ≪カリキュラム上の位置づけ≫ 教養科目・総合科目および専門科目「哲学・思想」分野の必修科目。 ≪学びの意義と目標≫ 哲学は難しい議論と思われがちですが、哲学的思考は私たちの日常の考え方に繋がっており、ちゃんとした手続きを踏めば「哲学する」のは決して難しい作業ではありません。それを学ぶのが目標です。	
評価方法 出席(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)。参加者が何を考えているかを知りたいので、学生との意見交換を重視します。したがって、できるだけ出席してくれることを望みます。少なくとも2/3の授業には出席すること。	
教科書 授業の中で指示する	

哲学 ※秋学期	秋 週2回 4単位
担当者：高橋 章仁	
講義の目標及び概要 ≪内容≫ 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義(秋学期)では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』を用いて、その思想を解説していく。 ≪カリキュラム上の位置づけ≫ 「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は決して平易ではない。哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。 ≪学びの意義と目標≫ テキストを忍耐強く読み進めていく覚悟をもって受講してほしい。哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。	
評価方法 学期末試験(教場レポート)の点数[70%]に、出席・授業態度などの平常点(状況に応じて小テストを行うことも考えている)[30%]を加味して総合的に判断する。なお、テキストをもってこない人は欠席扱いになるので注意してください。	
教科書 カール・ヤスパース著/草薙正夫訳『哲学入門』新潮文庫	

哲学概論		春	週1回	2単位
担当者：大賀 祐樹				
講義の目標及び概要				
1、内容 本講義では哲学史を順を追って解説していくというよりも、毎回ある一つのテーマを設定し、様々な哲学者達はその問題についていかに試行錯誤し、継承されたり批判されたりしながらどのように私たちにまで受け継がれているかということについて解説する。そして、抽象的な議論に終始するのではなく、「労働」「自由」「正義」といった現実社会に関わる話題に重点を置く。				
2、カリキュラム上の位置づけ この講義科目は、中学校社会科教諭および高等学校地理・歴史教諭免許取得単位認定の科目である。すなわち、この講義は、教諭となることを目指す者のための講義である。				
3、学びの意義と目標 哲学において大切なことは答えを出すことではなく、問いを立てることである。様々な哲学者達がどのような試行錯誤をして問いを立てたのかという道筋を追うことによって、日常社会の生活においても浮上する問題に対して自分なりの問いを立てる力を養うことを目標とする。				
評価方法 出席点 (20%)、中間レポート (20%)、学期末試験 (60%) によって評価する。				
教科書 授業の中で指示する 大賀祐樹『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』藤原書店				

伝統芸能 A		春集中	2単位
担当者：茂山 千三郎			
講義の目標及び概要			
日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。			
・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。 ・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。			
白足袋【靴下】の着用 実習の授業では、動ける服装で参加の事			
評価方法 狂言鑑賞のレポート……20% 狂言実習の評価 ……60% 公演後のレポート ……20%			
教科書 プリントを配布する			

伝統工芸 A		春集中	2単位
担当者：渡辺 正人			
講義の目標及び概要			
【内容】実際に伝統工芸の作品作りを体験し、伝統工芸への深い理解を得ることを目的とする。 春学期、または夏休みに事前に実習計画を提出して実習する。それぞれ2種類の実習科目を選び、実施計画は詳細に記載し、計画通りの実習を行う。その実習内容について、指導者の証明と評価を得、下記の提出によって、単位を得ることができる。実習先は現在未定だが、昨年度は実習内容によって (A) 大学 (B) 工房に分かれ、1:陶芸、2:友禅染、3:藍染、を行った。最終的にはガイダンスで提示する。			
【カリキュラム上の位置づけ】応用科目であり、体験科目。			
【学びの意義と目標】体験を通し、座学では学び得ない〈ものづくりの心〉を知り、理解する。			
評価方法 (1)ガイダンスの出席、(2) A 実習記録 B 体験レポート C 作品の提出、(3) D 指導責任者の評価書、(1)~(3)を総合評価する			
教科書 授業の中で指示する			

ドイツ語(総合)		秋	週2回	2単位
担当者：小谷 哲夫				
講義の目標及び概要				
1.内容 本講義はドイツ語 I・II で学習したドイツ語をブラッシュアップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、1・II で学習できなかった文法内容も学習していきます。				
2.カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語 I・II を学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。				
3.学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、本講義をもってドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。				
評価方法 出席率は重要視します。毎回練習問題に答えてもらったり、授業の取り組み姿勢を平常点とし、定期試験の結果を加えて、総合的に評価します。平常点は全体の6割、定期試験は4割とします。				
教科書 池内宣夫『ドイツ語表現への誘い』郁文堂				

ドイツ語(総合)		春	週2回	2単位
担当者：清水 威能子				
講義の目標及び概要				
1 内容 ドイツとオーストリアの都市（メルヘン街道、ラインとドナウ川流域、ベルリン、ウィーン、ザルツブルク）の歴史や文化を学び、それと平行してドイツ語の総合的な運用能力、特に読解力と自己表現力を養成します。最後は受講生の皆さんにも、ドイツ語圏の国の情報を収集してグループ発表をしてもらいます。				
2 カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅱを履修した後、受講できます。				
3 学びの意義と目標 今日ではあらゆる分野でグローバル・スタンダードへの対応が要求されており、私たちは国際感覚をもち、広い視野に立って思考する必要があります。この授業では、そのような社会的要請に応えられる、国際人としての教養を身につけることを目標とします。また中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて確実に把握し、インターネット上のドイツ語の情報を収集できるようになることも目指します。				
評価方法				
課題を行った上での授業への出席と、積極的な姿勢を評価する平常点（40%）、発表（30%）、期末試験（30%）により総合的に判断します。				
教科書				
プリントを配布する				

ドイツ語Ⅰ(初級A)		春	秋	週2回	2単位
担当者：小谷 哲夫					
講義の目標及び概要					
1 内容 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。					
2 カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。					
3 学びの意義と目標 国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。 本講義では、先ず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことができる水準に達することを目標とします。					
評価方法					
出席率は重視します。また、読み・和訳・練習問題を各自やってもらうことを平常点とし、全体の4割、残り6割は定期試験の成績で評価します。					
教科書					
秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社					

ドイツ語Ⅰ(初級A)		春	秋	週2回	2単位
担当者：宮崎 泰行					
講義の目標及び概要					
ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明(名前・読み方)から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思ひます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進め行きたいと思ひます。辞書の使い方(記述の約束事・必要な情報の取り出しかた・略語の理解の仕方等)も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思ひます。					
評価方法					
中間試験と数回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。					
教科書					
秋田 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社					

ドイツ語Ⅰ(初級A)		春	秋	週2回	2単位
担当者：清水 威能子					
講義の目標及び概要					
1 内容 ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語であるドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な練習を行います。また映像資料などで、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。					
2 カリキュラム上の位置づけ 1年次から受講できます。初学者を対象に発音から始め、ドイツ語Ⅱの準備を行います。					
3 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、ドイツ語の発音を正確に身につけ、基礎的な文法を理解した上で、簡単な自己表現ができるようになることを目標とします。					
評価方法					
授業への積極的な姿勢を評価する平常点(40%)、中間試験と期末試験(計60%)により総合的に判断します。					
教科書					
秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社					

ドイツ語Ⅱ（初級B）		春	秋	週2回	2単位
担当者：宮崎 泰行					
講義の目標及び概要					
ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Ⅰで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけからではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めたいと思います。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Ⅰと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。					
評価方法					
中間試験と数回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。					
教科書					
秋田 他『ドイツ語インフォメーション（新訂版）』朝日出版社					

ドイツ語Ⅱ（初級B）		秋	週2回	2単位
担当者：清水 威能子				
講義の目標及び概要				
1 内容 ドイツ語Ⅰの文法事項を復習しながら、さらに基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な練習を行います。テキストの内容を学び終わった後は、読解力を養うために平易な文章を読みます。また映像資料などで、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。				
2 カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅰを履修した後、受講できます。ドイツ語総合や会話の授業の準備を行います。				
3 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、基礎的な会話表現を身につけ、短い文章を読み、書けるようになることを目標とします。				
評価方法				
授業への積極的な姿勢を評価する平常点（40%）、中間試験と期末試験（計60%）により総合的に判断します。				
教科書				
秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション（新訂版）』朝日出版社				

ドイツ語Ⅲ（中級A）		秋	週2回	2単位
担当者：小谷 哲夫				
講義の目標及び概要				
1. 内容 本講義はドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習したドイツ語をブラッシュアップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、Ⅰ・Ⅱで学習できなかった文法内容も学習していきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語Ⅰ・Ⅱを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。				
3. 学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。				
評価方法				
出席率は重要視します。毎回練習問題に答えてもらったり、授業の取り組み姿勢を平常点とし、定期試験の結果を加えて、総合的に評価します。平常点は全体の6割、定期試験は4割とします。				
教科書				
池内宣夫『ドイツ語表現への誘い』郁文堂				

ドイツ語Ⅲ（中級A）		春	週2回	2単位
担当者：清水 威能子				
講義の目標及び概要				
1 内容 ドイツとオーストリアの都市（メルヘン街道、ラインとドナウ川流域、ベルリン、ウィーン、ザルツブルク）の歴史や文化を学び、それと平行してドイツ語の総合的な運用能力、特に読解力と自己表現力を養成します。最後は受講生の皆さんにも、ドイツ語圏の国の情報を収集してグループ発表をしてもらいます。				
2 カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅱを履修した後、受講できます。				
3 学びの意義と目標 今日ではあらゆる分野でグローバル・スタンダードへの対応が要求されており、私たちは国際感覚をもち、広い視野に立って思考する必要があります。この授業では、そのような社会的要請に応えられる、国際人としての教養を身につけることを目標とします。また中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて確実に把握し、インターネット上のドイツ語の情報を収集できるようになることも目指します。				
評価方法				
課題を行った上での授業への出席と、積極的な姿勢を評価する平常点（40%）、発表（30%）、期末試験（30%）により総合的に判断します。				
教科書				
プリントを配布する				

ドイツ語講読A	春 週1回 2単位
担当者：原 一子	
講義の目標及び概要	
(1) (内容) 文法の復習を希望する学生が多いので、初めの5、6回は『ABCドイツ語文法読本』により文法をさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読する。受講者数が少ないので、例年、学力、卒業論文などの研究テーマ、興味・関心などに応じて、学生と相談の上、時間配分や教材を決めている。 (2) (カリキュラム上の位置づけ) 4年次生を対象に開講される、大学・大学院共通の科目である。「ドイツ語Ⅲ」までを修得済みか、同等以上の学力があると担当者が認めた者が履修できる。 (3) (学びの意義と目標) ドイツ語のより高度な文献を多読することによって語学力を磨くことが本授業の目標である。大学院生と一緒にドイツ語の文法を復習し、文献を多読することで、ドイツ語の総合的学力の向上を図る。大学院進学を志す者にも益すること大である。	
評価方法	
出席率(30%)、授業中の課題の習得度(70%)により総合的に評価する。学期末試験を行うか否かは受講者数によって決める。	
教科書	
大岩信太郎 『ABCドイツ語文法読本』 三修社	

ドイツ語講読B	秋 週1回 2単位
担当者：深井 智朗	
講義の目標及び概要	
ドイツ語文法を終えていることを前提に、ドイツ語の文章を読みこなし、それぞれの研究のためにドイツ語を使うことができるための練習をする。 テキストは担当者が毎回用意する。最初はアンドレア・ラブの『ドイツ人一生』を扱った簡単なテキストを読み、その後は最新の小説、新聞、雑誌記事などから、テキストを選んで読むことにしたい。 ドイツ語に担当である必要はないがよく準備をして参加していただきたい。なおこのクラスは大学院と学部の4年生が共通に履修することができることになっている。	
評価方法	
毎回の訳文の発表で評価する。試験は行わない。	
教科書	
プリントを配布する	

ドイツ語コミュニケーション	春 週2回 2単位
担当者：B. ミュラー	
講義の目標及び概要	
みなさんは「ドイツ」ということばから、どのようなことを連想しますか？ 冬のクリスマスマーケット、ベンツ、フォルクスワーゲンなどの自動車、バッハ、ベートーベンなどの音楽家、ロマンチック街道や古城街道、グリム童話 などすでによく知っている。「ことば」や「文化」が、たくさんあると思います。しかしながら、ドイツ語で「こんにちは」は、何と言うのでしょうか？ ドイツの大学生は、どんな生活をしているのでしょうか？ 一度、ドイツへ旅行してみたい人もいます。実際のドイツ語圏の人々の生活について、どのくらい知っていますか？ この授業では、文法や読解といった「ドイツ語」の勉強だけではなく、ドイツ語圏に暮らす人々の生活や文化についても学びます。「ことば」だけでなく、五感を使ってドイツ語圏に暮らす人々の考え方や文化について学びを深める。	
評価方法	
50%は小テスト(学期毎に2回)と期末試験の点数、残りの50%は授業への出席率と授業中の態度。	
教科書	
Shuko Sato 『Szenen 1 integriert』 (SANSHUSHA)	

ドイツ文化	秋 週2回 4単位
担当者：満留 伸一郎	
講義の目標及び概要	
1. 内容 ドイツ文化とは、現在のドイツ連邦共和国に限定されるものではない。これをドイツ語「圏」文化ととらえると、オーストリアやスイスの一部が、さらに歴史的には、現リトアニアの一部まで含むかつての東プロイセン、オーストリア=ハプスブルク帝国に属していた東ヨーロッパの広大な国々・地域が含まれる。著名な「ドイツ人」の多くは、こういった地域で生まれ、あるいは活動した人びとだった。このようなドイツ文化のひろがりと多様性を、図版、音楽、映画、インターネット・コンテンツなどを多用しながら解説していく。現在のドイツの日常生活についても折に触れ言及する。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化入門のひとつの入り口として、ドイツ文化を総合的に解説する。 3. 学びの意義と目標 他文化理解とは、イメージの固定と解体という往復運動のくりかえしであり、そのきっかけを与えることが本講義の目的。安易な単純化によって他文化を型にはめることの危うさを学び、そのような意識をドイツに限らず広く応用できるようになってほしい。	
評価方法	
平常点を加味した出席と、学期末試験により判断。割合としては出席40%、試験60%。	
教科書	
プリントを配布する	

統計学	春 週2回 4単位
担当者：松原 望	
講義の目標及び概要	
<p>統計学はむずかしくありません。私たちの日常生活を通して学ぶことでよりおもしろい知的世界が広がります。今の「社会」を生き抜くために必要な統計学の基礎的知識と見方を学んでいきましょう。就職に役立つワード・エクセルの操作も扱います。初心者にはだれでも歓迎しますし、数学的知識も不要です。</p>	
評価方法	
出席点50%、期末テスト50%	
教科書	
松原望『はじめよう！統計学超入門』（技術評論社）	

道徳教育の研究	秋 週1回 2単位
担当者：阿久戸 光晴	
講義の目標及び概要	
<p>目標は、毎回の授業をとおして、本学の建学の精神につながる「日本国憲法で保障された人権尊重の根底にある人格の尊厳への畏敬」を道徳の究極的価値基準として構築しつつ、文部科学省指定の「小学校『道徳』学習指導要領・最新版」の内容を身につけることである。</p> <p>また概要は以下のとおりである。</p> <p>小学校における道徳教育のあり方について学び、いまの学校ではどのような道徳教育が求められているかを考える。</p> <p>道徳教育の意義・目的・方法などについて本質的なところから理論的に講義したうえで、ビデオ教材や情報教育機器を使用しながら学校における道徳教育および道徳授業の指導における目標や内容、また、指導方法や資料作成の仕方、コミュニケーションスキルについて具体的・実践的に考察しながら身につけていく。道徳教育の今日的問題や学習指導要領の学習も、実践的かつ多角的に検討・理解する。そして、おわりに受講者の単元指導計画作成と模擬授業をおこない、まとめる。</p>	
評価方法	
概ね試験70%、出席30%とするが、小学校教諭教職課程の必修科目であるため、必ず出席すること。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』	

道徳教育の研究	春 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
講義の目標及び概要	
<p>(1) (内容)</p> <p>本講義は中学校教育の中で、道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史の変遷について理解するとともに道徳教育の意義・目的・内容・方法等について実践事例をもとに考察する。指導資料を開発しそれをもとに学習指導案を作成する。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>教員免許を習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) (学びの目標)</p> <p>1. 道徳教育の変遷について理解する。 2. 指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。</p>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 出席状況を重視する（配点の35%）。 	
教科書	
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 道徳編』日本文教出版	

東洋史概説 A	春 週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>近代以前のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史的意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。</p>	
評価方法	
出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

東洋史概説B		秋 週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明		
講義の目標及び概要		
<p>1. 内容</p> <p>東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけの基礎的な講義。日本史を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るができるようになる。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになる。</p>		
評価方法		
出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。		
教科書		
プリントを配布する		

読書と豊かな人間性		秋 週1回 2単位
担当者：斉藤 規		
講義の目標及び概要		
<p>読書の意義と目的の考察、子どもの読書環境、読書によるイメージ構築能力、発達段階に応じた読書、読書能力の考察方法、読書資料の種類とその特性、読書資料の選択と蔵書構成の考察、読書活動を進める環境整備、学校図書館における読書の導きと読書の生活化とのかかわりなどを考察する。司書教諭資格取得の必修科目である。</p>		
評価方法		
出席、提出物、考查点などをもとに総合的に判断する。		
教科書		
図書館教育研究会『新学校図書館通論 第3版』学芸図書株式会社		

特別活動の理論と方法		春集中 2単位
担当者：阿久戸 多喜子		
講義の目標及び概要		
<p>学校の教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について、まず、受講者の体験を振り返り、この科目の持つ児童への指導の意味を捉える。また、学校の教育課程における特別活動の位置付けを確認し、総合的な学習との違いを明確にしながら、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を理解する。実際に指導計画を立て、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる。</p>		
評価方法		
出席、授業レポート、試験（都道府県採用試験模擬テストを含む）、指導計画案への取組み内容により、総合的に評価を行う。		
教科書		
授業の中で指示する 文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』（東洋館出版社）		

特別活動の理論と方法		秋 週1回 2単位
担当者：石井 昇		
講義の目標及び概要		
<p>(1) 〈内容〉</p> <p>中学校では、生徒の人間関係や連帯感、集団の一員としての自覚や責任感の希薄化等が問題になるなかで、「特別活動」は最も大事な教育活動である。本講義はそのことをふまえ「特別活動」の学校教育に占める役割、「特別活動」の沿革、「特別活動」の3つの集団活動の理論について理解するとともに、学級活動について学習指導案を作成する。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>教員免許を習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) 〈学びの目標〉</p> <p>1. 「特別活動」の沿革、3つの集団活動について理解する。 2. 学級活動の学習指導案を作成することができる。</p>		
評価方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35%）。 		
教科書		
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 特別活動編』ぎょうせい		

都市化の地理学	
秋	週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この講義は近代に入ってから顕著となっている都市化と人々の暮らしの関係を考え、身近な近隣住区にフィールドをおいて、住みよい街とはどんなものかを考察するものである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 一年時に基礎的な政治経済、社会の学びを前提とした専門科目である。</p> <p>3. 意義、目標 一市民として自分の街を住みよくするため、気づき、行動するため、知識と歴史上の経験を学ぶことを旨とする。</p>	
評価方法	
レポートのプレゼンテーション50%、出席貢献度等50%と総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 水内不二雄『経済・社会の地理学』有斐閣	

図書館概論	
春	秋 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館運営について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程の最も基礎的な科目である。図書館情報学への入門的な位置づけであるので、司書資格を取得しようとする学生は、早目に履修してほしい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 情報社会における図書館の意義と機能について理解し、情報の提供者としてよりよい助言ができるようになることをめざすと同時に、情報の賢い利用者として、情報を選択し活用できるようにすることを目標にする。</p>	
評価方法	
試験またはレポート40%、各授業時の課題35%、授業態度や授業への参加度25%	
教科書	
今まどり『図書館学基礎資料(最新版)』樹村房 塩見昇『図書館概論 新訂(最新版)』日本図書館協会	

図書館学演習	
通年	週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 多種多様なメディアが存在する今日では、従来の資料枠組みを越えた広範な知識や、多角度からの情報特性の把握が必要である。授業では、毎年、受講生自らがアイデアを持ち寄って一年間のテーマを決め、情報社会や図書館に関する調査研究を行う。取り上げるテーマやその成果の発表形態も年度によって、またメンバーによって多様である。これまでにも、レポート・論文だけでなく、絵本や、ゲーム、小説、アニメなどの各自の得意な形式での発表がなされた。これまでに取り上げられた課題の例は、「アンパンマンから情報リテラシーを考える」「テレビ番組の暴力シーンが子どもに及ぼす影響」「オリジナルの絵本を作る」「ブックトークをやってみる」「メディアとジェンダーを考える」等。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程のなかの発展的な科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 司書課程で学んだ知識・技能を基に、自由なアプローチで図書館や情報について考察を行うことで、創造性と独創性を養いながら図書館情報学への総合的な理解を深める。</p>	
評価方法	
ゼミ形式なので、授業時の発表内容、討論への参加状況、授業態度等を総合して50%、成果物50%	
教科書	
授業の中で指示する	

図書館経営論	
春	秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 本授業の狙いは、具体例を織り交ぜながら、図書館運営にかかわる計画策定や評価の仕方、組織構造などについて学ぶことである。図書館の運営は、大別すると [1]経営管理、[2]個別業務の2段階に分けることができるが、[2]個別業務は「図書館サービス論」などの授業で詳細に触れられるので、本授業では、[1]経営管理を重点的に学習することにする。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 司書課程 資格科目 (学びの意義と目標) 図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって、現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について考えていく。</p>	
評価方法	
出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する	
教科書	
高山正也編著『図書館経営論 改訂版』樹村房	

図書館サービス論	秋 週1回 2単位
担当者：岡谷 大	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 図書館サービスとマネジメントの関係、利用空間の整備といったインフラから説明し、貸出サービスなど具体的なサービスの構造と展開について講義する。とくに最近のインターネットによるサービスなど情報サービスについても説明する。さらに図書館には様々な利用者がいるのでそれぞれに応じたサービスや、さらには利用者との交流など一歩踏み込んだサービスについて考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 図書館経営・運営を背景にふまえた具体的な内容となっている。また近年のインターネットなどの普及により情報検索サービスとも関連が深い。</p> <p>3. 学びの意義と目標 具体的な図書館サービス・情報サービスの構造が理解できるようになること、多様な利用者への人的サービスが理解できるようになること。</p>	
<p>評価方法</p> 期末試験50%、出席50% とし、出席を重視する。	
<p>教科書</p> 小田光宏『図書館サービス論』日本図書館協会	

図書館実習	通年 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為に図書館において夏期休暇中の2週間実習を行う。授業で学んだことを生かすよい機会なのでぜひ参加してほしい。実習館には、主として身近な公共図書館を選び、各自で図書館に実習依頼を許可を得てくることを原則とする。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程のなかでは、発展的な科目に位置づけられる。基礎的、応用的科目を履修した上に、実習体験を積むことで、図書館への理解を深めてほしい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで、知識が生きたものとなり、図書館がより身近に感じられるはずである。生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。</p>	
<p>評価方法</p> 実習指導者による評価と実習記録によって評価する。	
<p>教科書</p> 授業の中で指示する	

図書館資料論	春 週1回 2単位
担当者：岡谷 大	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門資料論の基礎分野となる。図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。</p> <p>3. 学びの意義と目標 図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされること。</p>	
<p>評価方法</p> 期末試験50%、出席50%とし、出席を重視する。	
<p>教科書</p> 馬場俊明『図書館資料論』日本図書館協会	